



博物館通信

秋号



2024 年 10 月 発行 Vol.93

月が天体を隠す!?

日食や月食はよく知られていますが、“食”というのは、ある天体が他の天体を^{かく}隠してしまう天体現象です。地球に一番近い月が遠い星（恒星）を隠す「星食」や月が惑星を隠す「惑星食」というものもあります。

12/8

土星食

12 月 8 日に土星が月に隠される惑星食の 1 つ「土星食」が日本各地で見ることができます。しかし、残念なことに浅口市では土星食にはならず、月のふちぎりぎりを横切ります。

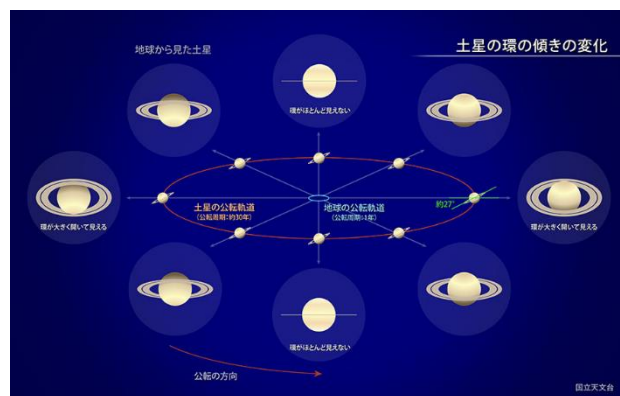
土星の環にも注目！

土星の環は、おもに数 cm～数 m の氷の粒^{つぶ}でできており、直径は約 30 万 km と土星本体の 2 倍以上にもなりますが、厚みは数十～数百 m ほどとても薄い^{うす}です。

環は、土星の公転軌道面から少し傾^{かたむ}状態で太陽の周りを回っています。そのため、地球からの環の見え方が年々変化し、約 15 年ごとに真横から見る位置関係になるため、厚みの薄い環が消えてしまったかのように見える「環の消失」が起こります。次に起きるのは、来年です。なので、今は細くなっていつている姿を見ることができます。



浅口市での土星食の様子（ステラナビゲータで作成）



環の見え方の変化

©国立天文台

12/14

プレアデス星団食

12 月 14 日の 3 時から 5 時ごろにかけて、おうし座のプレアデス星団（すばる）が土星に隠される「プレアデス星団食」が起こります。



12/25

スピカ食

12 月 25 日にはおとめ座の 1 等星スピカが月に隠される「スピカ食」が起こります。スピカ食は今年 2 回目です。



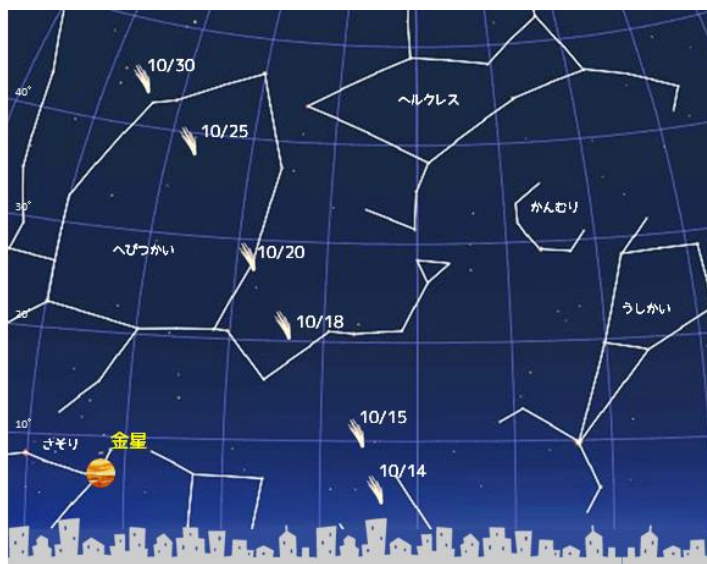
浅口市でのスピカ食
(ステラナビゲータで作成)



彗星が肉眼で見える？

9月から10月にかけて「^{ツチンシャン}紫金山・^{すいせい}アトラス彗星」
と呼ばれる2023年に発見された新彗星が肉眼で見えるかもしれません。

彗星は氷やチリでできており、太陽に近づくと太陽の熱により氷が蒸発し、チリやガスが放出されます。それが太陽光で照らされ明るく見えます。今回も太陽から離れていると暗く肉眼で見えることはできませんが、太陽に近づいた時には0等級以上になり、肉眼で見えるかもしれないと予想されています。



18時30分ごろの位置 (ステラナビゲータで作成)

今回しか見えない彗星!?

彗星には、太陽の周りを一定の周期で回っている「周期彗星」と太陽に近づくのは1度きりで二度と帰ってこない「非周期彗星」があります。^{ツチンシャン}紫金山・アトラス彗星は、非周期彗星で再び見ることはできないので逃さないようにしましょう！ただ、彗星が見えるかという予想は非常に難しく、過去にも大彗星になると予想されていても残念な結果に終わったことも少なくありません。今回の紫金山・アトラス彗星も最新情報によると彗星の崩壊が起こり、予想より暗く肉眼では見えないかもしれないと言われています。

今後の情報にも注目しましょう。



望遠鏡や双眼鏡では見られるかもしれないからあきらめないでね



イベント情報

※詳しくは当館HPをご覧ください

10/26
(土)

3施設の
特別公開!!



博物館



国立天文台

京都大学岡山天文台



あさくち天文台フェスタ 2024

大きな望遠鏡の前に研究者のお話が聞ける！普段は聞けないみんなの疑問に答えてもらえるかも！？
工作やスタンプラリーなども開催予定。みんなで天文について楽しく学ぼう!!



Takeout ランチも OPEN 予定



プラネタリウム秋番組



「かぐや姫は未来の月からやって来た」

2080年、人類は月面に観測基地を設け、資源の開発を進めていた。
月で研究を進めていた若月かぐやは、異常現象によって2020年代の日本へとタイムスリップしてしまう。
彼女は島で暮らし始め、陶芸家として新しい人生を歩み始めるが…。
現在すすめられている月探査計画「アルテミス計画」テーマにした、科学エンタテインメント番組です。

岡山天文博物館

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
TEL/FAX 0865-44-2465

<http://ww1.city.asakuchi.okayama.jp/museum>